

令和5年度 三郷市商工審議会 議事録

1 開催日時：令和5年6月19日（月）午前10時00分～11時10分

2 開催場所：三郷市役所本庁舎東別館 第一会議室

3 出席者 10名（委員総数10名）

（委員）

宇田川初夫委員、竹本裕司委員、鈴木邦男委員、中川伴子委員、遠藤貴史委員
豊田茂雄委員、雨宮義子委員、小島一茂委員、佐々木亨委員、山田香樹委員

（事務局）

田中 地域振興部長

中村 商工観光課長

吉田 商工観光課長補佐

坂本 商工観光課 商工労政観光係長

宮本 商工観光課 商工労政観光係主事

4 会議傍聴者 なし

5 議事内容

1 開会

2 あいさつ

3 議事

（1）商工・労働・観光施策について

- ・商工施策について
- ・労働施策について
- ・観光施策について

（2）今後のイベント等事業実施予定について

(質疑・意見)

<商工施策・労働施策・観光施策について資料に基づき事務局説明後>

(委員) P. 16 勤労者住宅資金貸付事業について、5年間実績なしとのことだが、今後も変わらず続けるのか。

(事務局) 金利については中央労働金庫に相談していますが、下げるのは難しいとのこと。
ただし今後大きく上げることも見込んではいないと伺っているので、今後市中金利が上がった際などは当事業が活きるものと考えます。

(委員) 商工事業における「中小企業」とは何を基準にしているのか。

(事務局) 基本的には「中小企業基本法」を基準にしています。
中小企業基本法における中小企業者の定義は、資本金の額、または従業員の人数により定められており、それらの上限は業種により異なります。

(委員) 基準となる資本金の額から考えると、中小企業への支援額が少ないように思う。

(事務局) 今後、より予算を獲得できるよう努めます。

(委員) P. 31 観光協会実施事業について、周辺市と同じく三郷市も市民まつりを行っていたように思うが、実施事業の中に入らない。今後そういった事業は位置づけされるのか。

(事務局) 市民まつりは観光協会主催の事業ではなく（市民まつり実行委員会が主催）、観光協会が実施する同等の大規模事業としては、misatostyle がそれにあたります。

(委員) P. 28 ふるさと納税返礼品について、令和3年度から4年度にかけて発送件数が倍以上に増えているが、要因は何だと考えるか。

(事務局) 令和4年度のコストクーポン券等新規返礼品追加が要因と考えられます。

(委員) P. 18 就職支援セミナーの参加者について、年齢層は個別相談と同じく、55～64歳が多いのか。

(事務局) お見込みのとおり、おおよそ40代から50代がメインの年齢層です。

(委員) 住宅貸付、リフォーム補助等、一般市民に浸透していない事業も多い。
今後更なる周知方法を模索してほしい。

<今後のイベント等事業実施予定について資料に基づき説明後>

(委員) 市内経済活性化事業（キャッシュレス決済還元キャンペーン）について、対象店舗に対しても還元にあたるような利点はあるか。

(事務局) 消費者に対するような直接的な還元は発生しませんが、キャンペーンを行うことで市内店舗を利用する方が増えることが予測され、それが利点になると考えています。

(委員) 1回の会計に対する還元上限額について、決済を2回に分ければ上限は別々になるか。

(事務局) 仕組上は可能ですが、あくまで一回の買い物につき一会計であることを前提とした制度なので、決済時間があまりに近い等、故意に会計を分ける処理を行ったと判断された場合は、キャッシュレス決済事業者から指導が入る可能性があります。

(委員) 1つのキャリアにおける還元上限額は、月毎か、キャンペーン期間通してのものか。

(事務局) キャンペーン期間全体を通しての上限額です。ただし予算が上限に達した時点で、ひと月を待たずしてキャンペーンが早期終了する可能性があります。

(委員) 今回のキャンペーンを行うにあたって同様の事業を行っている自治体等をリサーチしたかと思うが、どの程度の割合の自治体が行っているのか伺いたい。

(事務局) 近隣市に関しては吉川市がペイペイ単独で事業を実施しています。
その他、埼玉県内において多くの自治体が事業を行っており、
1つのキャリア単独であったり、複数キャリアで行ったりと方法は様々です。

(委員) 何処の店舗で使ったか把握は可能か。市内であっても大型店舗でばかり消費するようでは、市内経済の活性化に繋がらないのではないか。

(事務局) キャリア毎の使用額は日次で把握可能です。市内で使用店舗を絞る予定はありません。

- (委員) 前回の紙券によるクーポンと違い、キャッシュレス決済では使用できる年代に偏りがある。キャッシュレス決済を扱う若い年代は商店街での買い物を行わないので、やはり予算額相応の市内経済活性化には繋がらないのではないか。
- (事務局) 当事業が、高齢者がデジタルサービスを取り入れる足掛かりになればと考えています。
- (委員) キャッシュレス決済を導入するにあたっては、アプリのインストール等サポートする窓口があることが望ましい。
- (事務局) 本庁舎で行っていたマイナカード対応窓口のように、サポート窓口を設置したいと考えています。
- (委員) 紙と電子を併用して運用することは難しいのか。
- (事務局) 併用して行う場合事務費が相当額かかってしまうため、限られた予算を出来るだけ市民に還元することを考え、今年度の事業はキャッシュレス決済を選択しました。
- (委員) 結果キャッシュレス決済を選択するのは、それを扱えない層を切捨てることに繋がらないか。
- (事務局) 当市の過去の政策は紙媒体によるものが多かったが、県内等各自治体が多くキャッシュレス決済を用いた事業に着手する中、今年度は三郷市も取り入れることを選択しました。

4 閉会 (午前11時10分 散会)